

第114号 通巻20巻第5号
2001年1月31日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎・FAX 077-585-4397

☎524-0212
守山市服部町2250番地

☆大型建物と方形区画を発見☆

1. 下之郷遺跡44次調査(下之郷町)

下之郷遺跡では、弥生時代中期の環濠集落^{かんごう}の範囲や地下の状態を調べるための確認調査を実施しています。今回の調査のねらいは、環濠集落内部に想定される南北の区画溝(『乙貞』109号で紹介)の存在を確認することが目的で、環濠集落の中央部分に調査区を設定しました。その結果、北側で東西にのびる溝と南北にのびる溝とが直角に折れ曲がる部分が検出されました。27次調査(平成10年度実施)でも、南北にのびる区画溝が検出されていることから、集落内部に東西約75m、南北約100の範囲で方形区画が存在する可能性が考えられます。

また、区画溝の内側コーナー部分で掘立柱建物が6棟分発見されました。6棟の建物はいずれも独立^{どくりつ}棟持柱^{むなもちばしら}を備える高床式の建築物と考えられ、規模は異なるものの同じ役割をになう建物が何回も建て替えられたものと考えられます。最も発達した時期には、床面積が50㎡を越す大型の建物となります。この建物は、これまでに発見された下之郷遺跡の建物の中でも最も大きな建物です。

弥生時代の環濠集落で、内部を溝や柵で区画し、特殊な空間を設ける集落は非常に少ないのですが、吉野ヶ里遺跡(佐賀県)、池上曾根遺跡(大阪府)、加茂遺跡(兵庫県)などでみることができます。それらの区画は『まつりや儀式をした場所』、『首長の居宅』、『ムラの倉庫を囲むもの』など色々な意見に分かれますが、ムラの中でもたいへん重要な場所であったことが推測されます。滋賀県下においても弥生時代中期の環濠集落内部に方形区画が見つかったの初めてであり、下之郷遺跡の先進性が指摘されます。

(川畑)

建物番号	規模(梁×桁)	寸法(m)	床面積(㎡)	備考
A棟	1間×3間	2.6×8.3	21.5	
B棟	1間×6間	3.9×14.2	55.4	棟持柱有り
C棟	1間×4間	3.9×9.4	36.6	棟持柱有り
D棟	1間×4間	4.6×6.9	31.7	
E棟	1間×4間	4.3×8.3	35.7	周囲に溝有り
F棟	1間×4間	3.7×8.8	32.5	周囲に溝有り

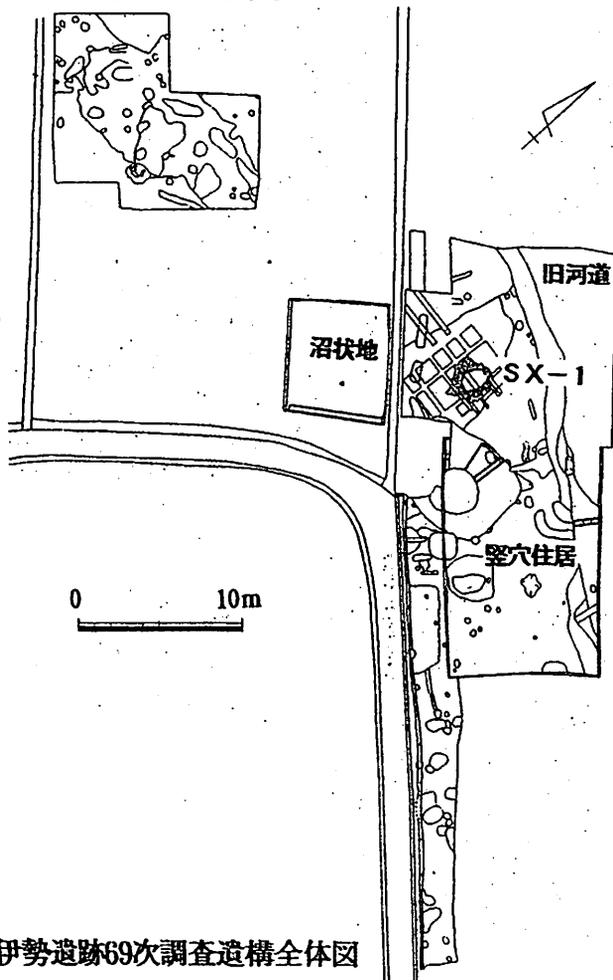
下之郷遺跡44次調査掘立柱建物一覧表

67次

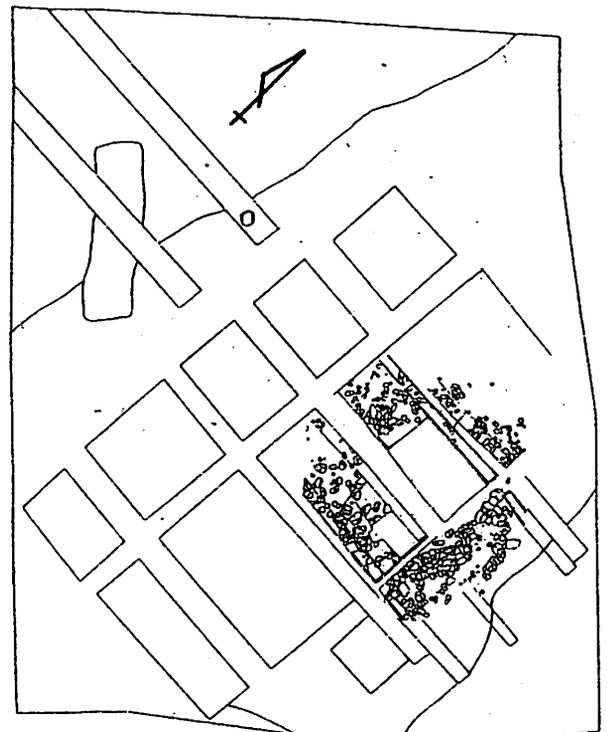
2. 伊勢遺跡69次調査 (伊勢町)

伊勢遺跡でも範囲確認のための調査を実施しています。今回の調査は昨年度実施した66次調査の継続調査で、調査地点はこれまでよく分かっていなかった伊勢遺跡の北東部に位置しています。標高は99m程で、伊勢遺跡の中でも比較的土の高地の地区です。調査の結果、東西方向にのびる旧河道、竪穴住居、沼状地、土坑等を検出しました。旧河道に接して、一辺約6mを測る方形の竪穴住居が1棟検出されました。出土遺物から弥生時代後期半ばから後半にかけて営まれた住居と考えられます。この住居の西側に向かって沼状の落ち込み (SX-1) が見つかりました。SX-1は竪穴住居に切られていて、弥生時代後期後半以前に埋まったものとみられます。SX-1の肩部で、^{しょうどかい}焼土塊が直径2.5m程の範囲で広がっていることが確認されました。焼土塊は厚さ5cm程で、表面は強い火を受けて赤銅色に発色していました。裏は生粘土の状態途中で剥離していて、本来はかなり厚かったと考えられます。表面に窪みや穿孔が観察されるものもあります。赤く焼けた焼土塊はドーナツ状に広がっていて、若干内湾しています。SX-1の底からやや浮いた状態で出土していることや、周囲にはまったく炭や焼土粒などか見つからないことから、焼成施設ではなく、この地点で焼土塊が廃棄されたものと考えられます。金属器などの^{ちゅうぞういこう}铸造遺構にかかわる遺物である可能性もあり、今後調査を周辺に広げ、その性格を明らかにしたいと考えています。

(伴野)



伊勢遺跡69次調査遺構全体図



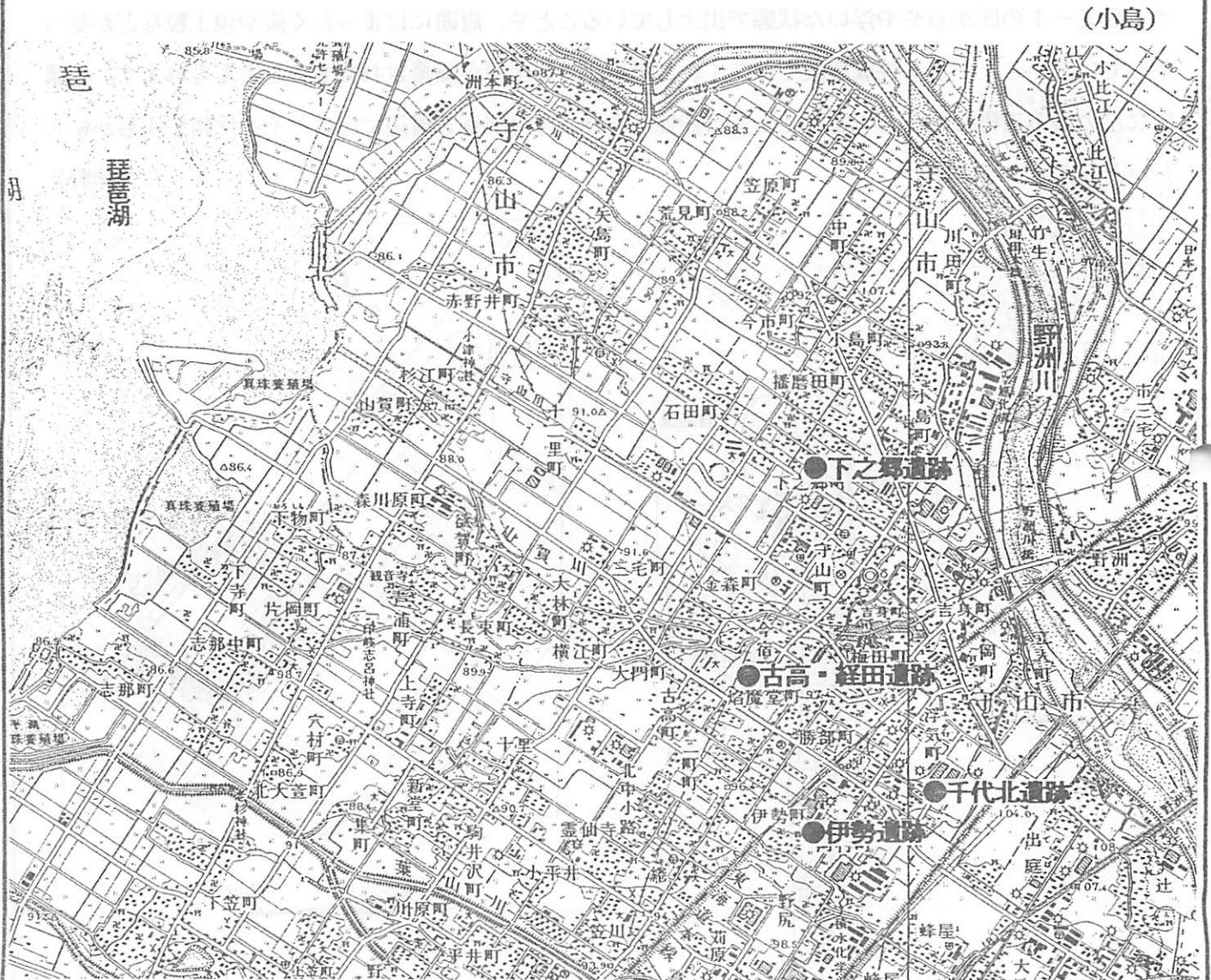
SX-1 遺物出土状況図

3. 古高・経田遺跡の調査 (今宿町)

区画整理工事に先立ち、今宿町地先において12月から発掘調査を実施しています。これまでのところ、平安時代の掘立柱建物などの遺構を検出しています。これから北東側に向かって調査を進めていく予定です。(藤原)

4. 千代北遺跡の調査 (千代町)

宅地造成工事に先立ち、12月から調査を実施しています。これまでのところ、縄文時代の土器と石器が多量に見つかっています。石器には石鏃、石錐、石錘、磨石などがあり、サヌカイトの剥片も多く出土しています。千代北遺跡は開発に伴い、新しく発見された遺跡です。今後調査が進めば、遺跡の様子がより明らかになると期待されます。



発掘調査位置図